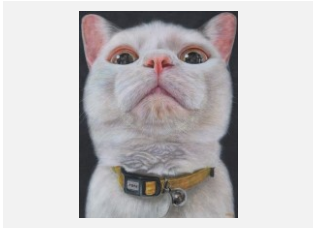
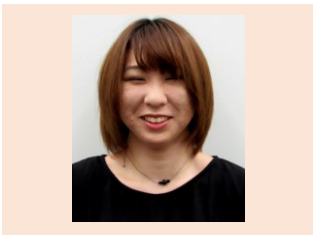


芸術新聞社賞

長谷川まどか(三重)  
「ねこパンチ3秒前」  
色鉛筆 F50

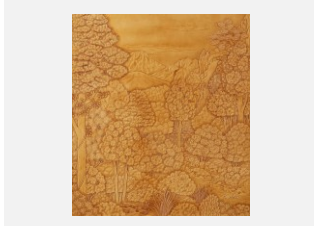


この「ねこパンチ3秒前」という作品のモデルは、我が家の猫です。私は、何故かこの猫の下に見られていて、毎朝、猫パンチをして私を起こしに来ます。そんな日常を切り取って描いてみました。

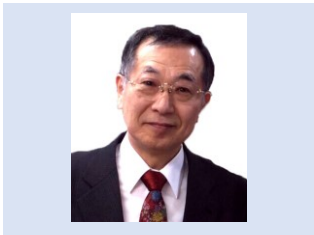


中尾賞

曾田耕吉(島根)  
「穏やかな一時」  
工芸/皮革 90×75cm

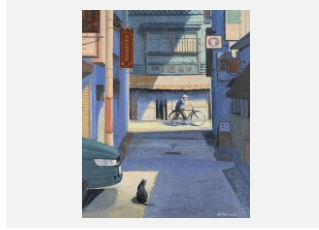


四四年にわたり努めてきた技術が表彰され、心から感謝しております。皆様へ作品を通して平安と豊かさが伝わりますようお願いしております。特に風景については持てる技を尽くして、真心を込めました。

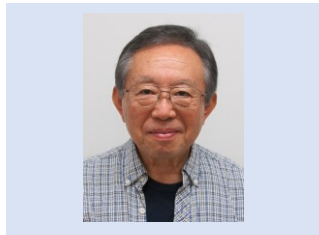


中尾賞

石村空也(埼玉)  
「朝日差し込む」  
油彩 F100

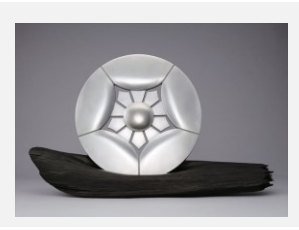


受賞を大変ありがたく感謝します。これまで、緑青の建物を描いてきた。今回は、八月の早朝の朝日を浴びた、緑青のある街並を描いてみた。構図が定まらず悩んだ。今後も緑青を描き続けたい。

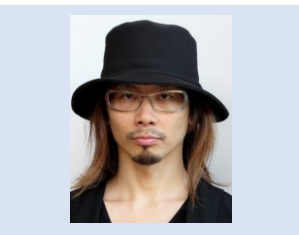


新日美大賞

森本盾二(京都)  
割梅鉢「ご先祖様より」  
彫刻 4.5×75×16cm

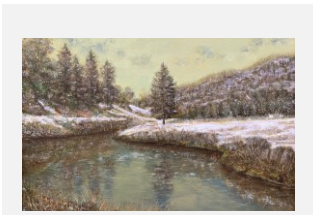


この度は新日美大賞を頂きまして誠にありがとうございます。我が家の家紋をモチーフに御先祖様から子孫へ受け継がれる流れを鍍金と木工で表現しました。未来に善いものを繋いでいきますように。

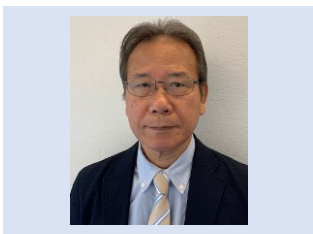


特選

篠 光定(東京)  
「待春」  
油彩 P100

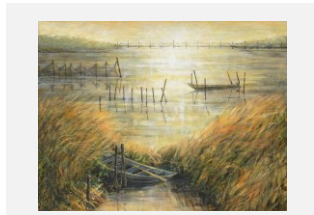


「待春」は、透明感、水面の美しさ、静けさの中に心の動きを描いた作品です。描き終えた今、感謝と学ばずという言葉が繋がった題名であると感じています。

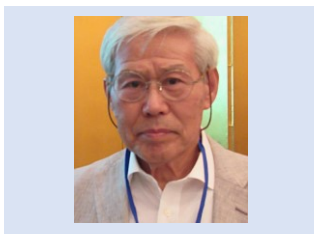


特選

片桐金治郎(千葉)  
「手賀沼残照」  
油彩 F100



手賀沼風景を多く描く理由は、住まいが近く見慣れた場所の為。描く時はそのまま写し取る事を避け自分の思い、感動、心情等いかに表現できるかと格闘が始まり、苦しみながら描き上げる事が多いです。

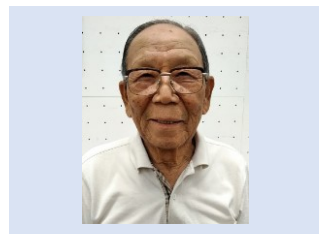


新人賞

吉原 要(群馬)  
「穴窯灰かぶり大壺」  
陶芸 48×48cm

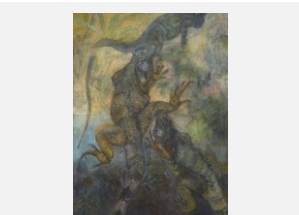


仕事の合間の趣味に陶芸を考え、穴窯造りから始めました。大変な時期もありましたが、ある時人に勧められ今回の出品となりました。大きな賞を戴き身の引き締まる思いです。有難うございました。



新人賞

斉藤 司(千葉)  
「生」  
日本画 234×174 cm



この度の受賞を大変嬉しく思っています。絵は、一度頓挫したものを制作したものです。魅力あるイグアナの世界が伝えられたら幸いです。今後も自分なりの日本画を極めたいです。感謝します。

